

<2月定例研究会の報告>

平成28年2月13日（土）、当研究所で定例研究会が行なわれました。

研究会のテーマは、<「文の構成」 助詞1つの文の構成>です。

午後5時から研究授業、5時30分から研究協議を行ないました。

研究授業者：高橋幸恵（つばき教育研究所スタッフ）

対象者：施設に通所している方

テーマ：「文の構成」

学習内容：助詞1つの文の構成

1. 学習経過

平成25年3月から学習を開始した（平成25年3月～8月：月2回、平成25年9月～現在：週1回）。

学習開始から現在までの経過は、以下の通りである。

（1）学習開始時の様子

学習開始時より学習意欲が高く、学習途中に離席することもなく学習をすすめることができた。

- 名詞となかまのことばの関係性が不確かな様子がみられたこと。
- 正確に理解している動詞が少ない様子がみられたこと。

から、単語構成の学習は清音から行ない、動詞の理解の学習も行なうことにした。

教材をちらっとしか見ない、説明を最後まで確認せずに、場面で理解して答えを言う様子も見られた。

そこで、指導者のかかわりとしては、

- 「よく見てね」と言ってから教材等を呈示する、しっかりと見せる。
 - 「わかりません」「おわりました」など指導者に向かって伝えることができるように促す。
- ことを意識した。

（2）文の構成に入るまでの学習

1）単語構成（平成25年5月～平成27年10月）

単語構成板に絵カードを入れ、必要な文字カードを選び、順序正しく単語を構成する方法で行なった。

清音・濁音・半濁音・拗音・長音・拗長音・促音を含む単語を終了した。

絵カードは、よく見えるようにやや大きめのサイズにした。

- 2文字以上に濁音がつく単語（例 んぶとん、ふでばこ、みずぎ、はがき、など）
 - まつげ／まゆげ、まど／ドア、針／糸、ゆび／つめ、など概念が近い単語
 - おにいさん／おねえさん／おとうと／いもうと、など関係理解も伴う単語
 - 名詞と行為のことばが似ている単語（例 そうじきを「そうじ」、せんたくきを「せんたく」と答えた）
- は、間違えさせないような援助がより必要であった。

2）動詞の理解（平成25年3月～平成27年4月）

動作絵カードを用いて学習を開始した。

- 動作絵カードを呈示すると、名詞の表出は見られたが、動詞の表出はほとんどなかった。
- 絵カード（静止画）から動きを想像することが難しい、のではと推測された。
- 既習の動詞でも、動作絵カードが変わると動詞を抽出することが難しくなる様子が見られた。

そこで、実際の動作や動く絵カードを用いて動きに着目させながら動詞の学習をすすめた。

「“どうする”の勉強をします」と伝えることで、どうする＝動詞を答える、ことの定着を図った。

動作絵カードを用いた分類の学習も行なった。

3) なかまのことはの学習（平成25年11月～現在）

単語構成で学んだ単語を用いて、なかま集め（絵カードでの分類、名詞カードでの分類）を行なった。

なかまのことはをあまり知らず、知っていても名詞と横並びに位置づけていると思われた。蓋が透明になっている箱に絵カード（または名詞カード）を入れて、蓋になかまのことはを貼って教えた。

名詞の集まりからなかまのことはを、なかまのことはから個々の名詞を表出できるように学習をすすめた。

(3) 文の構成（助詞1つ）の学習（平成27年5月～現在）

1) 学習方法

① 動作絵カードの理解

- 動作絵カードと同じように、具体物を使って実際の動作を行なう。
- 動作絵カードと具体物を使った実際の動作のマッチングを行なう。

② ①の動作絵カードを用いた文の構成の学習

- 動作絵カードを呈示する。「何をどうする」と言う。
- 動作絵カードを見て「何を？」と聞かれて名詞を、「どうする？」と聞かれて動詞を言う。
- 文構成板に、名詞カード、助詞カード、動詞カードで文を構成する。
- 構成した文を書いて読む。

2) 経過

学習開始時は、動作絵カードを用いず、指導者が実際の動作で呈示した。

動詞の理解を図るために、名詞を可変にした数種の文例を用いた。

名詞と動詞を対で覚える（例 名詞がりんごだと（動詞は）食べる、名詞がくつしただと（動詞は）はく）
ことがないように、名詞は固定、動詞を可変にした数種の文例も用いた。

現在は、動作絵カードを用いて学習をしている。

動作絵カードの内容を理解するために、

- 具体物を用いた実際の動作も呈示する。
- 対象者も実際の動作を行なう。
- 動作絵カード上で、絵を切り抜いたものを動かすことで動作を見せる。

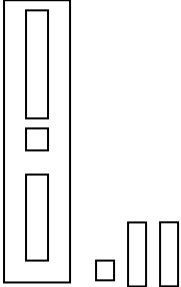
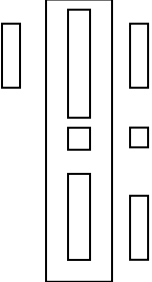
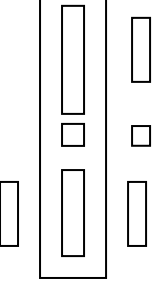
ようにしている。

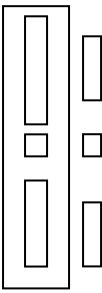
2. 本時の指導

(1) 学習項目・ねらい・教材

| 学習項目 | ねらい | 教材 |
|----------------|---|---|
| 文の構成 (助詞1つ) | <ul style="list-style-type: none">● 動作絵カードの内容を理解して、文を言うことができる。● 動作絵カードを見て、助詞1つを使って文の構成をすることができる。 | 文構成板、動作絵カード、名詞カード、 動詞カード、助詞をの文字カード、 書字用紙、ジュース |

(2) 展開

| 学習項目 | 学習内容・学習活動 | 留意点 |
|---|---|---|
| 1. はじめの挨拶 | 対象者が「勉強、はじめます。」と言う。 | 指導者が座りかけているときに、挨拶を始めたら、「先生が座ってから挨拶します。」と言う。 |
| 2. 文の学習 「～を食べる」 (全4種)の復習 | 対象者が「～を食べる」の動作絵カードを見て文を言う。書く。読む。実際の動作をする。 | |
| <p>3. 文の構成① 「みずをのむ。」 (前回の学習の続き)</p> <p>【文の構成】 1 試行目： 順不同に 3枚同時呈示 (横に並べる)</p>  <p>2 試行目： 名詞カードを 2枚呈示</p>  <p>3 試行目： 動詞カードを 2枚呈示</p>  | <p>指導者が「文の勉強をします。」と言う。 動作絵カードを呈示する。「みずをのむ。」と一緒に言う。 指導者が動作絵カードのみずを指して「何？」と聞く。 対象者が絵を見て「みず」と言う。 指導者が「どうする？」と聞く。 対象者が「のむ」と言う。 指導者が「文を言いましょう。」と言う。 「みずをのむ。」と一緒に言う。 文構成板を呈示する。 指導者が「文をつくります。」と言う。 指導者が「ここでも文を言いましょう。」と言う。対象者は文構成板上で文を言う。 指導者が、順不同に名詞カード、助詞、動詞カードを横に並べて呈示する。 (対象者は、呈示される毎にカードを読む。) 指導者が動作絵カードを指して、「これと同じ文を作ってください。」と言う。 対象者が構成する。 「よくできました。」とよく褒める。 指導者が文構成板を指して「文を読みましよう。」と言う。 対象者が「みずをのむ。」とひとりで読む。 「よくできました。」とよく褒める。</p> <p>動作絵カードを呈示する。 指導者が「文を言いましょう。」と言う。 対象者が「みずをのむ。」とひとりで言う。 文構成板を呈示する。 指導者が「文をつくります。」と言う。 指導者が「ここでも文を言いましょう。」と言う。対象者が文構成板上で文を言う。 指導者が、文構成板の横に、名詞カード二枚、助詞、動詞カードを呈示する。 (対象者は、呈示される毎にカードを読む。) 指導者が動作絵カードを指して、「これと同じ文を作ってください。」と言う。 対象者が構成する。 「よくできました。」とよく褒める。 指導者が文構成板を指して「文を読みましよう。」と言う。 対象者が「みずをのむ。」とひとりで読む。 「よくできました。」とよく褒める。</p> <p>動作絵カードを呈示する。 指導者が「文を言いましょう。」と言う。 対象者が「みずをのむ。」とひとりで言う。 文構成板を呈示する。 指導者が「文をつくります。」と言う。 指導者が「ここでも文を言いましょう。」と言う。対象者が文構成板上で文を言う。 指導者が、文構成板の横に、名詞カード、助詞、動詞カード二枚を呈示する。 (対象者は、呈示される毎にカードを読む。) 指導者が動作絵カードを指して、「これと同じ文を作ってください。」と言う。 対象者が構成する。 「よくできました。」とよく褒める。 指導者が文構成板を指して「文を読みましよう。」と言う。 対象者が「みずをのむ。」とひとりで読む。 「よくできました。」とよく褒める。 指導者が「文を書きましよう。」と言う。 対象者が文を書く。 指導者が「文を読みましよう。」と言う。 対象者が書いた文を読む。 「よくできました。」とよく褒める。</p> | <p>動作絵カードを呈示した際は、対象者が絵をしっかりと見ていることを確認すること。(以降同様)</p> <p>絵を見て答えていることを確認する。見ないで答えようとしたら、「よく見て。」と促す。</p> <p>文構成板を指しながら言うように、対象者の左手を誘導する。名詞カード(動詞カード)を読まずに文構成板に入れようとしたら、「読んでね。」と言う。</p> <p>名詞のみしか言わなかったときは、「文を言います」と言ってから一緒に言う。</p> <p>文構成板は撤去せず、机の上に置いておく。 助詞の次のマス目を1マス空けるように言う。 句点を書き忘れたら、マス目を指して教える。</p> |
| 4. なかまのことばの復習 | 指導者が用紙を対象者に渡す。 対象者が調味料の名詞を書く。 | |
| 5. 文の構成② 「オレンジジュースをのむ。」 【動作絵カードと同じように、具体物を使って実際の動作を行 | 指導者が「文の勉強をします。」と言う。 動作絵カードを呈示する。指導者が「オレンジジュースをのむ。」と言う。 「これと同じ、先生がやります。見ていてください。」 | 動作絵カードを呈示した際は、対象者が絵をしっかりと見ていることを確認すること。(以降同様) |

| | | |
|--|---|---|
| <p>なう。】</p> <p>【動作絵カードと具 体物を使った実際の 動作のマッチングを 行なう。】</p> <p>【文の構成】 1 試行目： 1 枚ずつ呈示</p> <p>2 試行目： 順序よく3枚同時 呈示 (上から縦に並べる)</p>  | <p>指導者が具体物を使って実際の動作を行なう。 「(動作絵カードを指しながら) これと同じだったね。」と動作絵カードと実際の動作が同じであったことを確認する。 動作絵カードを指して「オレンジジュースをのむ、やってください。」と言う。 対象者が具体物を使って実際の動作を行なう。 「(動作絵カードを指しながら) これと同じ、よくできました」と動作絵カードと実際の動作が同じであったことを確認する。 動作絵カードを呈示する。指導者が「オレンジジュースをのむ。」と言う。</p> <p>「よく見てね。」と言ってから、3枚の動作絵カードを呈示する。 指導者が具体物を使って実際の動作を行なう。 指導者が「同じ、どれ?」と聞く。対象者は指導者が行なった実際の動作と同じ動作絵カードを選択する。 「そうだね、同じだね。」「よくできました。」とよく褒める。 動作絵カードを指して、「オレンジジュースをのむ。」と指導者が言う。 指導者が動作絵カードのオレンジジュースを指す。名詞カードを出す。 対象者が「オレンジジュース」と読む。 指導者が動作絵カード上で絵を切り抜いた物を使って動きを見せる。動詞カードを出す。 対象者が「のむ」と読む。 指導者が動作絵カードを呈示して、「オレンジジュースをのむ。」と言う。</p> <p>文構成板を呈示する。 指導者が「文をつくります。」と言う。 動作絵カードを呈示する。「オレンジジュースをのむ。」と指導者が言う。 指導者が動作絵カードのオレンジジュースを指して、名詞カードを出す。 対象者が「オレンジジュース」と読む。 指導者が「オレンジジュース、はここに入ります。」と文構成板上の名詞部分を指す。 対象者が文構成板に入れる。 文構成板の横に、助詞を呈示する。 対象者が「を」と読む。 指導者が「はここに入ります。」と文構成板上の助詞の部分の部分を指す。 対象者が文構成板に入れる。 指導者が動作絵カード上で絵を切り抜いた物を使って動きを見せて、動詞カードを出す。 対象者が「のむ」と読む。 指導者が「のむ、はここに入ります。」と文構成板上の動詞の部分の部分を指す。 対象者が文構成板に入れる。 指導者が文構成板を指して「文を読みましょう。」と言う。 対象者が「オレンジジュースをのむ。」とひとりで読む。 「よくできました。」とよく褒める。</p> <p>動作絵カードを呈示する。「オレンジジュースをのむ。」と一緒に言う。 指導者が動作絵カードのオレンジジュースを指して、「なに?」と聞く。 対象者が「オレンジジュース」と言う。 指導者が動作絵カード上で絵を切り抜いた物を使って動きを見せて「どうする?」と聞く。 対象者が「のむ」と言う。 指導者が「文を言いましょう。」と言う。 対象者が「オレンジジュースをのむ。」とひとりで言う。 文構成板を呈示する。 指導者が「文をつくります。」と言う。 指導者が、文構成板の名詞部分を指しながら「ここにはなにが入ります。」と言ってから、文構成板の横に、名詞カードを呈示する。 対象者が、名詞カードを読む。 指導者が、文構成板上の助詞の部分の部分を指しながら「ここにはがが入ります。」と言ってから、文構成板の横に、助詞を呈示する。 対象者が、「を」と読む。 指導者が、文構成板の動詞部分を指しながら「ここにはどうするが入ります。」と言ってから、文構成板の横に、動詞カードを呈示する。 対象者が、動詞カードを読む。 指導者が動作絵カードを指して、「これと同じ文を作ってください。」と言う。 対象者が構成する。 「よくできました。」とよく褒める。 指導者が文構成板を指して「文を読みましょう。」と言う。 対象者が「オレンジジュースをのむ。」とひとりで読む。 指導者が「文を書きましよう。」と言う。 対象者が文を書く。 指導者が「文を読みましよう。」と言う。 対象者が書いた文を読む。</p> | <p>絵を見ていることを確認する。</p> <p>動作を見ていることを確認する。</p> <p>絵を見て答えていることを確認する。見ないで答えようとしたら、「よく見て。」と促す。 動きを見て答えていることを確認する。見ないで答えようとしたら、「よく見て。」と促す。 名詞のみしか言わなかったときは、「文を言います」と言ってから一緒に言う。</p> <p>文構成板は撤去せず、机の上に置いておく。 助詞の次のマス目を1マス空けるように言う。 句点を書き忘れたら、マス目を指して教える。</p> |
| <p>6. おわりの挨拶</p> | <p>対象者が「勉強、終わります。」と言う。</p> | |

3. 研究協議

研究授業終了後、研究協議が行われました。特別支援学校の先生方、支援級の先生方、就労支援にかかわる方、障害支援施設の方の参加がありました。

初めに授業者から次の説明がありました。

- ・ 今回の授業の対象の方は高度難聴で手話と指文字と書字を用いて授業を進めてきました。
- ・ 通所開始時、高等部既卒でした。保護者から、簡単な手話や指文字でやりとりを行ってはいるが、日常生活で必要なことばが、場面で理解しているときもあり、どの程度理解しているかわからないとの話がありました。それを受けて、清音を含む名詞の単語の理解、構成、読み、書きの学習から開始し、濁音、半濁音、拗音、拗長音、促音を含む名詞の単語の学習を経て、動詞の理解、文構成の学習と進めてきました。
- ・ 名詞の概念、動詞の概念の形成が難しかった為、同じ名詞の物を実物や写真で紹介したり、同じ動作の文は実際の道具を用いたり、絵の一部が動く動作絵カードを用いて学習しました。同時に保護者には、指導場面では紹介が難しい物は日常生活で教えていただくようお願いしました。

参加者からは次のような感想や意見がでました。

- ・ 初めて手話と指文字を用いた授業を見学しました。指導者がそれらを適切に使っていたのすごいいと思いました。相手を理解したいという思いが指導者にないと、短期間で習得はできないと思います。
- ・ 学校においても、授業で学んだことが日常生活に反映できないことがあります。担当の子どもの実態を把握し、教材の工夫を行い、本当に丁寧に教え積み上げていくことが大事だと改めて気づかされました。
- ・ 授業で学習した助詞を日常生活の会話の中でつかっていき、会話の中で拡げていくようにしてはどうか。
- ・ 動詞の概念形成は難しいです。同じ動作の文を一遍に全て教えようとすると理解できない方もいらっしゃるのでは、お子さんによって考慮していかなければならないと思います。

宮城先生からは文の理解の学習に至るまでの学習内容の話がありました。

- ・ 文構成の学習の前の単語の学習の段階
 - ①名詞の学習、②動詞の学習、③形容詞、形容動詞などの学習
- ・ 文構成の学習の段階
 - ①助詞1つを用いた文の学習。日常動作が続く「を」をはじめに行う。
 - ②2つの助詞を用いた文構成の学習
 - ③3つ以上の助詞を用いた文構成の学習その後、文の理解、文章の理解の学習へと進む。
また今後の指導に関して以下の助言がありました。
 - ①日常生活で普段行っている動詞の概念を拡げていく
 - ②手話や指文字を用いたやりとりは、速くなってしまうので、ゆっくり行なうことに留意する

今回の研究会では、「動詞や形容詞、形容動詞の概念の理解は難しく、日常生活になかなか反映されにくい」ということについて協議できました。有難うございました。

次回の研究会は6月頃の予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。